

スズメの発色と年齢・性別の関係を考える
ーメラニンによる咽の黒斑の大きさ（バッジサイズ）の話題を中心にー
森本 元（山階鳥類研究所）

スズメ *Passer montanus* は人々にとって最も身近な鳥種であり、鳥類標識調査においても多地点で多数が捕獲されている。他方、性的二型に乏しいだけでなく、年齢差も見いだしにくい外見であるため、その身近さに反して年齢と性別の識別が困難な種でもある。スズメの体色は茶色や黒色が大半を占めており、この発色はメラニン色素による発色である。また、咽の黒斑（バッジ）は、個体差が大きく、雌雄差があることも知られている。この咽のバッジはスズメの特徴的な形態形質であると同時に、年齢や性別に関連する指標として扱える可能性がある。実際、スズメや近縁のイエスズメ *Passer domesticus* では、咽のバッジサイズに関連した雄間闘争や繁殖成功といった多数の研究が国内外で実施されており、スズメ類の咽のバッジは個体間の社会的信号としての機能を検証した鳥類研究として、世界的に最も広く知られた研究事例でもある。総じて、雌より雄のバッジサイズが大きい、個体差も大きい。本発表では、メラニン色素による発色メカニズムとスズメ類のバッジの研究事例と演者らによる日本のスズメでの研究を合わせて紹介し、スズメの性判別・年齢判別について議論する。